飛鳥時代

名前

問1　明治新政府が中央集権体制を確立する過程で行った政策のうち、1871年に藩を廃止して府・県を置き、中央政府が任命した官吏（知事・県令）を各地に派遣して、全国を直接支配しようとした出来事を何と呼びますか。（2024年 福井県公立入試 類似）

1. 版籍奉還　2. 公地公民制　3. 廃藩置県　4. 地租改正

問2　飛鳥時代、推古天皇の摂政であった聖徳太子（厩戸皇子）は、冠位十二階の制定とともに「十七条の憲法」を定めました。この法令が制定された主な目的として最も適切なものはどれですか。（2024年 静岡県公立入試 類似）

1. 天皇の命令に従うことなど、役人が守るべき道徳や政治を行う上での心構えを示すため　2. 戦後の民主主義に基づき、個人の尊厳を重んじる教育の理念を確立するため　3. モンゴル帝国のフビライ・ハンによる侵攻に備え、全国の武士を統制するため　4. 新しく開墾した土地を、期限を設けずに永久に私有することを認めるため

問3　701年に制定された、刑法にあたる「律」と、行政や民法などの決まりにあたる「令」を組み合わせた、律令国家としての仕組みを完成させた法典の名前を答えなさい。（2017年 沖縄県公立入試 類似）

1. 御成敗式目　2. 養老律令　3. 十七条の憲法　4. 大宝律令

問4　中大兄皇子とともに政治改革を主導し、後にその功績を称えられて「藤原」という姓を授かり、平安時代の摂関政治へとつながる一族の祖となった人物は誰ですか。（2017年 和歌山県公立入試 類似）

1. 北条時政　2. 中臣鎌足　3. 聖徳太子　4. 小野妹子

問5　7世紀後半、日本（倭）は百済の復興を支援するために朝鮮半島へ大軍を送りましたが、中国の唐と新羅の連合軍に大敗を喫しました。この「白村江の戦い」での敗戦直後、日本が国家の存立をかけて最優先で取り組んだ政策の方向性として、最も適切なものはどれですか。（2018年 神奈川県公立入試 類似）

1. 唐との友好関係を回復させるため、遣唐使の派遣を一時中断し、日本独自の国風文化を育成する方向　2. 唐や新羅の侵攻に備えて各地に防衛拠点を築くとともに、戸籍の作成などを通じて天皇による国内統治を強める方向　3. 豪族たちの私有地と私有民を認めることで国内の不満を抑え、有力な氏族を中心とした連合政権を維持する方向　4. 仏教の力を国家の守りとするため、聖武天皇の命により東大寺に大仏を造立し、全国に国分寺を建立する方向

問6　聖徳太子が「十七条の憲法」の制定や「冠位十二階」の制度を導入した背景にある、当時の政治的な狙いとして最も適切なものはどれですか。（2017年 沖縄県公立入試 類似）

1. 豪族同士の争いを鎮め、天皇を中心とした中央集権的な政治体制を整えるため　2. 特定の豪族が代々高い位を独占する仕組みを強化し、政権を安定させるため　3. 農民に土地を分け与える班田収授法を施行するための、全国的な戸籍を作成するため　4. 仏教の影響を排除し、神道に基づいた古くからの統治方法を復活させるため

問7　7世紀後半、日本（倭）が「白村江の戦い」で唐・新羅の連合軍に敗れた後、九州地方では大規模な防衛施設の建設が進められました。大宰府を守るために築かれた、全長約1.2kmにおよぶ巨大な土塁と、背後の山に築かれた朝鮮式山城の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2025年 茨城県公立入試 類似）

1. 屋島城と基肄城　2. 水城と大野城　3. 鴻臚館と多賀城　4. 金田城と板付遺跡

問8　白村江の戦いでの敗北後、天武天皇が全国的な戸籍を整備し、中央集権体制の構築を急いだ目的や背景として最も適切な説明はどれですか。（2024年 鳥取県公立入試 類似）

1. 有力な地方豪族に土地の私有を認めることで、地方の開墾意欲を高め、国家全体の生産力を向上させるため　2. 人々の身分と居住地を正確に把握することで、天皇が民衆を直接支配し、防人などの徴兵や税の徴収を確実にするため　3. 仏教の力を借りて国家の災いを取り除くため、全国に国分寺や国分尼寺を建立する資金源を確保するため　4. 唐にならって商業を盛んにするため、和同開珎などの貨幣を発行し、市場での取引を全国的に管理するため

問9　聖徳太子が小野妹子を中国の隋に派遣した際、隋の皇帝に宛てた国書の中に「日出づるところの天子、書を日没するところの天子に致す、恙なきや」という一節がありました。このような表現を用いて使節を派遣した聖徳太子の意図として、最も適切な説明を選んでください。（2022年 和歌山県公立入試 類似）

1. 隋で流行していた新しい仏教の経典を、日本へ無償で提供してもらうため　2. 当時の中国の圧倒的な武力を背景に、日本の統治権を委ねる意思を示すため　3. 中国を上位とする従来の形式ではなく、対等な立場での国交を樹立しようとするため　4. 隋の皇帝の臣下として認めてもらい、朝鮮半島での軍事的優位を確保するため

問10　日本の税の歴史をたどる資料において、その出発点として紹介されるのが701年に完成した「大宝律令」です。この法令によって定められた、都での労役の代わりの布を納める「庸」や、各地の特産物を納める「調」といった税制度について述べた文として、正しいものはどれですか。（2020年 山口県公立入試 類似）

1. 特産物などを都まで運ぶ負担は、税を納める農民自身が負うことになっていた　2. 「庸」は、収穫した稲の一定割合を地方の役所に納めるものであった　3. 税を納めるために都へ向かう際の食料や旅費は、すべて国から支給されていた　4. 「調」は、土地の面積に応じて全ての耕作者に一律で課せられる税であった

問11　7世紀後半から8世紀にかけて、日本が中国の隋や唐の国家体制を手本として編纂し、それに基づいて政治を行った基本的な法典の総称は何ですか。（2023年 京都府公立入試 類似）

1. 律令　2. 分国法　3. 公事　4. 御成敗式目

問12　7世紀の年表において「現存する世界最古の木造建築物」と説明される寺院の歴史的な背景について述べたものとして、最も適切なものはどれか。（2018年 福岡県公立入試 類似）

1. 藤原頼通が極楽浄土を再現するために建立し、平安時代に栄えた国風文化の代表的な建築物となった。　2. 鑑真が来日した際に建立され、当時の唐の最新の建築様式を取り入れたことで知られている。　3. 聖武天皇の命により建立され、国ごとに置かれた国分寺を統括する総本山としての役割を担った。　4. 聖徳太子によって建立され、当時の大陸の影響を強く受けた飛鳥文化の特色を今に伝えている。

問13　聖徳太子が建立した法隆寺に代表される、日本で最初の本格的な仏教文化について、その名称として正しいものを選びなさい。（2024年 三重県公立入試 類似）

1. 飛鳥文化　2. 東山文化　3. 国風文化　4. 天平文化

答え合わせ・解説

問1	答え 3 廃藩置県	明治新政府は、まず1869年の「版籍奉還」で大名に土地（版）と人民（籍）を天皇に返還させましたが、旧藩主がそのまま知藩事として統治を続けたため、中央集権化は不十分でした。そこで1871年に「廃藩置県」を断行し、軍事力と行政権を完全に中央政府へ掌握させることで、全国を直接支配する体制を完成させました。公地公民制は古代律令国家の原則であり、地租改正は税制の改革を指します。
問2	答え 1 天皇の命令に従うことなど、役人が守るべき道徳や政治を行う上での心構えを示すため	聖徳太子は、豪族どうしの争いを鎮め、天皇を中心とした中央集権的な国家体制を築くことを目指しました。そのため、役人が守るべき道徳的な規範として「十七条の憲法」を定め、「和を以て貴しとなす」という精神や、天皇の命令への服従を説きました。土地の私有を認めたのは奈良時代の墾田永年私財法、教育の理念については戦後の教育基本法の内容です。
問3	答え 4 大宝律令	唐の制度を手本として制定され、この法典の完成により、日本は天皇を中心に全国を統一的に支配する律令国家としての体制を整えました。
問4	答え 2 中臣鎌足	中臣鎌足は、中大兄皇子の知恵袋として蘇我氏打倒の計画から改革の実行まで重要な役割を果たしました。死の間際に、これまでの功績によって「藤原」の姓を贈られ、その子孫である藤原氏は後の日本政治において大きな影響力を持つことになります。
問5	答え 2 唐や新羅の侵攻に備えて各地に防衛拠点を築くとともに、戸籍の作成などを通じて天皇による国内統治を強める方向	白村江の戦い（663年）での大敗は、当時の日本にとって唐や新羅からの侵略を受けるかもしれないという重大な危機を招きました。この危機感から、天智天皇は北九州に水城や大野城を築き、防人を配置して防衛を固めました。さらに、庚午年籍という日本初の全国的な戸籍を作成し、土地と人民を国家が直接管理する中央集権体制の構築を急ぐこととなりました。これが後の律令国家へとつながる重要な転換点です。
問6	答え 1 豪族同士の争いを鎮め、天皇を中心とした中央集権的な政治体制を整えるため	当時は蘇我氏などの有力豪族が政治の実権をめぐって対立していました。聖徳太子は、家柄ではなく才能や功績に応じて位を与える「冠位十二階」や、役人の心得を説く「十七条の憲法」を定めることで、豪族中心の政治から天皇を中心とするまとまりのある国づくりを目指しました。
問7	答え 2 水城と大野城	663年の白村江の戦いで大敗した中大兄皇子（天智天皇）は、唐や新羅の日本侵攻を恐れ、九州の政治拠点である大宰府の防衛を急ぎました。平地には「水城」と呼ばれる巨大な土塁を築いて敵の進軍を阻み、山の上には「大野城」などの山城を築いて防御を固めました。これらの施設は、当時の緊迫した国際情勢を反映しています。
問8	答え 2 人々の身分と居住地を正確に把握することで、天皇が民衆を直接支配し、防人などの徴兵や税の徴収を確実にするため	対外的な危機に際し、日本を一つの強力な国家としてまとめる必要がありました。戸籍の作成は、それまで豪族が私有していた「民」を「公民」として国が直接管理することを意味します。これにより、誰がどこに住んでいるかを把握し、軍事的な防衛力の確保（徴兵）や、国家運営に必要な租・庸・調といった税を安定して集めることが可能になりました。これが律令国家における中央集権体制の根幹となりました。
問9	答え 3 中国を上位とする従来の形式ではなく、対等な立場での国交を樹立しようとするため	それまでの日本の外交は、中国の皇帝から称号を授かることで地位を認めてもらう「朝貢」の形式が一般的でした。しかし、聖徳太子は自らを「日出づるところの天子」と称し、隋の皇帝と対等の立場で交流しようと試みました。これには、日本の独立性を高めつつ、高度な技術や制度を吸収しようという目的がありました。
問10	答え 1 特産物などを都まで運ぶ負担は、税を納める農民自身が負うことになっていた	大宝律令のもとで課せられた「庸」や「調」は、負担者自身が都まで運搬する義務（運脚）を伴っており、農民にとって極めて重い負担となっていました。なお、収穫した稲を納めるのは「租」であり、食料などの旅費も自己負担でした。
問11	答え 1 律令	刑罰を定めた「律」と、政治の仕組みや行政上の規定を定めた「令」からなる法体系です。中国の高度な統治システムを導入することで、天皇を中心とした組織的な国家運営（律令国家）を目指しました。中世に定められた「分国法」や江戸時代の「公事方御定書」などとは、成立時期や性格が異なります。
問12	答え 4 聖徳太子によって建立され、当時の大陸の影響を強く受けた飛鳥文化の特色を今に伝えている。	法隆寺は推古天皇の摂政であった聖徳太子（厩戸王）ゆかりの寺院であり、飛鳥時代の仏教文化（飛鳥文化）を象徴する存在です。飛鳥文化は、中国の南北朝時代の文化や、朝鮮半島の百済、高句麗からの渡来人の技術が融合した日本初の本格的な仏教文化であり、法隆寺の建築様式にはその影響が色濃く残っています。
問13	答え 1 飛鳥文化	7世紀前半、聖徳太子が政治を執り行った時代を中心に栄えた文化を飛鳥文化と呼びます。法隆寺の建築や仏像などには、中国の南北朝時代の文化や、さらに西方のインドやギリシャの影響も見て取ることができます。